

2024年9月 定例観察会報告書

2024年9月20日

実施日 2024年9月8日(日)

テーマ 秋の兆しを探しに六甲北奥座敷を散策する

コース 有馬温泉駅～有馬ロープウェイ駅～紅葉谷～炭屋道分岐～有馬ロープウェイ駅

集合 9時30分 有馬温泉 太閤橋下

解散 13時30分 有馬ロープウェイ駅

参加者 ビジター 24名 会員 27名(内4班18名)

2024年の夏は、熱中症警戒アラートが連日発表されるほどの、暑さが厳しい夏でした。

9月の声を聞こうとしているときにノロノロ迷走台風10号がやってきたので、自主研修会は中止しました。定例観察会(本番)は、前日まで熱中症警戒アラートが出ていましたが、無事に開催することができました。

多少なりとも涼しい所として、太閤橋の下を集合場所に決めました。湿度も高いので参加者の体調を気遣いながら5つの班と会員班に分けてスタートをしました。



狭い道路を旅館や業者の車や、観光客の車が行き交う中、有馬ロープウェイ駅まで温泉街を通過して移動するのが少し大変でした。が、苔むした古い石垣に様々な植物が、適度な湿度と日照によってたくましく育っているのを見逃すことができません。



<観察できた主なもの>ヤマナラシ ツルドクダミ ヤクシソウ ヒヨドリバナ クズ

シダ類(オオバノイノモトソウ コバノヒノキシダ チャセンシダ トキワトラノオ クロノキシノブなどたくさん)

マユタテアカネ ナミハンミョウ 等々

暑さにも負けずやってきた有馬ロープウェイ駅前で、給水やトイレ休憩でほっと一休みすると、前方で虫のお話が始まりました。ケースに入った小さな虫（ハイイロチョッキリ）や PC でマユタテアカネの画像を見せてもらいながら、生き物たちの生態がとても面白く詳しい説明に聞き入っていました。植物との関わりを考えると切っても切れない関係ですね。



蒸し暑い温泉街から一転して木陰が涼しい緑のトンネルをゆっくり観察して回りました。そばを流れる滝川の音とミンミンゼミやツクツクボウシの鳴き声が響きます。ところどころで切通した岩壁の下にはあまり大きくない石がたくさん転がっています。長年の風雨にさらされて、少しずつ崩れていっているのでしょう。



岩壁が見えてきたところで、有馬温泉の歴史や地層についてごく短時間でまとめた説明を聞いていただきました。有馬温泉を語るうえで、歴史や地層の話をはずすことができません。もう少し詳しく聞きたいと興味をもって熱心に聞いていたビジターさんもいらっしゃいました。

何度も大きく崩落して、その度に大規模な砂防工事が行われている災害の痛々しい爪痕が見られます。自然と人間の「力と知恵」くらべを確認することができる場所です。

ところが崩れたところの小さな割れ目にも住処を見つけて根を下ろし、植物たちは花や実をつけてたくましく生きています。近くで動き回る虫たち、鳥たちにも思いをはせて、ゆっくりと観察を続けました。



紅葉谷と魚屋道をつなぐ山道である炭屋道の分岐点近くで、やっと昼食休憩となりました。滝川にかかる小さな木橋のすぐ先では、ツリフネソウの群生が満開となっていました。



<観察された主なもの>

トキリマメ オオバヤシャブシ ヒメヤシャブシ
ヤシャブシ タケニグサ キクバヤマボクチ
タチシノブ ホラシノブ イヌトウバナ
ウラジログシ メヤブマオ ヤブタバコ アカソ
コアカソ ヒノキバヤドリギ センボンヤリ
ツルニガクサ ヤブタバコ クサコアカソ

ハイイロチョッキリ(によるコナラの落枝)

ヌルデ3種の虫こぶ(ヌルデハベニサンゴフシ ヌルデハイボケフシ ヌルデミミフシ)等々

紅葉谷の入り口から滝川にかかる小さな木橋までの間を歩けば、ほんの短い距離でありながらも、太古の地球のダイナミックな動きにも思いをはせました。

紅葉谷の木漏日の中を吹く風は涼しくて、少しだけ秋の兆しを感じられたかもしれません。

植生豊かな六甲の奥座敷を楽しく散策することができました。

報告者 中塚順子